

開設年度	開設学部	開設学期	授業区分	担当教員	対象学年	授業科目番号	単位数
	東アジア研究科	前期	演習	小林宏至	1		1
授業科目名	特別研究(特別研究1)						
英文名	Dissertation Supervision(Dissertation Supervision 1)						
使用言語	日本語						
一般目標	院生各人が本授業を通して、より学術的意義のある博士論文を完成するに資する時間を共有することを唯一の目標とする。						
授業の到達目標	1) 社会人類学の基本的な研究史について理解すること 2) 社会人類学の基本概念について説明できるようになること 3) さまざまな社会事象を社会人類学的な視座から議論できるようになること						
授業の方法	社会人類学に関する講義、とりわけ東アジアの事例をもとにした議論を行う。 基本的には演習形式をとすが、博士課程の学生に合わせて講読、発表形式も含まれる。						
授業計画	第1回	教員と院生各人の年次計画、院生の研究内容(フィールドワークなど)に合わせて計画を立てる。					
	第2回	基本文献の確認①。研究の進捗状況の報告と質疑。					
	第3回	基本文献の確認②。研究の進捗状況の報告と質疑。					
	第4回	社会人類学の基本概念の整理と議論①。研究の進捗状況の報告と質疑。					
	第5回	社会人類学の基本概念の整理と議論②。研究の進捗状況の報告と質疑。					
	第6回	研究内容の研究史への位置づけ①。研究の進捗状況の報告と質疑。					
	第7回	研究内容の研究史への位置づけ②。研究の進捗状況の報告と質疑。					
	第8回	研究内容の総合的評価。研究の進捗状況の報告と質疑。					
成績評価基準	授業時の議論、発表内容、研究姿勢などを総合的に判断して評価する。						

開設年度	開設学部	開設学期	授業区分	担当教員	対象学年	授業科目番号	単位数
	東アジア研究科	後期	演習	小林宏至	1		1
授業科目名	特別研究(特別研究2)						
英文名	Dissertation Supervision(Dissertation Supervision 2)						
使用言語	日本語						
一般目標	院生各人が本授業を通して、より学術的意義のある博士論文を完成するに資する時間を共有することを唯一の目標とする。						
授業の到達目標	1) 社会人類学の研究手法を用いて調査対象を議論すること 2) 調査対象を社会人類学の研究史に位置づけること 3) 本講義で得た知見を学術誌にて発表すること						
授業の方法	社会人類学に関する講義、とりわけ東アジアの事例をもとにした議論を行う。 基本的には演習形式をとすが、博士課程の学生に合わせて講読、発表形式も含まれる。						
授業計画	第1回	教員と院生各人の年次計画、院生の研究内容(フィールドワークなど)に合わせて計画を立てる。					
	第2回	調査対象と社会人類学的分析①研究の進捗状況の報告と質疑。					
	第3回	調査対象と社会人類学的分析②研究の進捗状況の報告と質疑。					
	第4回	学術雑誌への投稿準備、授業内査読①研究の進捗状況の報告と質疑。					
	第5回	学術雑誌への投稿準備、授業内査読②研究の進捗状況の報告と質疑。					
	第6回	論文書評①研究の進捗状況の報告と質疑。					
	第7回	論文書評②研究の進捗状況の報告と質疑。					
	第8回	まとめ。研究の進捗状況の報告と質疑。					
成績評価基準	授業時の議論、発表内容、研究姿勢などを総合的に判断して評価する。						